

標 題 新たな担い手確保へ～飯南町産地ツアーに3名参加～

(ダイジェスト)

令和5年8月25日～27日に島根県が主催する産地ツアーが県内5か所で行われ、飯南町の産地ツアーに3名が参加しました。

指導農業士や新規就農者の農場での農業体験や意見交換、定住・就農支援制度等の説明等を通じて、参加者はそれぞれが思い描く農業経営のイメージをより具体化する一助となりました。

飯南町は、新規就農者の確保を目的に県内外の就農相談会等へ積極的に参加しており、直近5年間で4名の認定新規就農者が誕生し、現在も自営就農を目指す農業研修生2名が町内の農場で就農に向けた技術習得を行っています。

今年度も、6月にオンラインツアー、大阪就農相談会に参加し、町の振興品目であるパプリカやトマト等のPRを行い、8月25日～27日には関東、九州在住の3名が飯南町の産地ツアーに参加しました。

産地ツアーでは、26日に、自身もIターンで就農したN氏が経営する農園で農業体験や意見交換を行いました。N氏は県指導農業士として、前述の農業研修生2名（いずれもIターン者）を受け入れており、ツアー参加者は先輩Iターン者の苦労や就農への思い、実際に就農に向けた計画作りを行っている研修生の話を真剣に聞いていました。

その後、町の定住・就農支援施策の紹介やパプリカやトマトの選果場、リースハウス整備予定地の視察を行い、就農に向けたプロセスや出荷の流れ等を確認しました。

27日は、関西からIターンし、令和3年度から夫婦で営農を開始したI氏の農場でパプリカの芽かき作業等の農業体験や意見交換を行いました。真夏のハウスの暑さや取れたてのトマトの美味しさ等、実際に現地で体験しないと味わえない経験をし、参加者からは「将来を考えるうえで非常に参考になった」との感想をいただきました。

農業部としても、新たな担い手の確保・育成が産地の発展や地域農業の維持に不可欠な取り組みとして、引き続き関係機関と連携して支援していくこととしています。



パプリカの芽かき作業体験



選果場の視察